

【6月21日(金)ワークシフトプレイス vol.6 開催レポート】

【当日流れ】

今回の WSP ではテーマ「いつでもどこでも働ける」について、進んでいくための「ゲート」を改めて掲げて頂き、「どのようにゴールに向かって進んだら良いだろう？」という考えを個々人で深めていくため、『対話』をベースに進行していきました！

■関係性作り～インタビューをしよう！～

まずは関係性作りということで、参加メンバー同士でコミュニケーションをとるため、3人1組でインタビューを行いました！

[インタビューの『お題』]

☆WSP メンバーの方：『Baby Step』

前回参加した WSP メンバーに対しては、前回宣言した Baby Step について、「どうゆうアクションがあって、どのような変化があったか」についてインタビューを行いました。

☆初めて参加の方、前回欠席したメンバーの方：『挑戦』

初めて参加した方に対しては、『挑戦』というテーマで、「現在、挑戦していること」又は「挑戦しようとしていること」「挑戦し始めたこと」についてインタビューを行いました。

[インタビューをシェアしよう！]

インタビューを行った後は参加者全員の関係性を深めるため、インタビュー結果のシェアをしました。既に何か「行動に起こした人」、今まさに挑戦を「始めようとしている人」それぞれいらっしやいました！

- ・近隣の中学校で補修ボランティアを始めてみた！
- ・ワークショップに通い始めた！
- ・フトリードインの集中講座を始める！（なんか発見があったらシェアして下さるそうです！）
- ・論文に挑戦する！

などなど…

■未来志向を体感しよう！（15年前、15年後の「理想のキャリアパーソン像とは？」編）

続いて WSP に欠かせない「未来志向」を、バックカスティング（想定外の未来を想像する思考法）を使って体験して頂きました！テーマは「将来のかっこいいキャリアパーソン像」についてです。

[15年前(1998年)の「理想のキャリアパーソン像とは？」]

- ・自分の「キャリアパーソンに対する価値」を問い直した時期、今までのキャリア像とのズレを感じ始めた。
- ・女性として「主婦でありながら仕事もしている」事が、かっこいいキャリアパーソン。
- ・企業の中にいたけれど出向系の仕事を選ぶようになった時期→会社の中だけが自己実現の場ではないと感じ始めた(キャリアパーソン像がシフト！)

[15年後(2028年)の「どんなキャリアパーソンになっているか？(イケてる将来はこうだ！)」]

- ・女性が、フラットな感じでキャリア積める(働き易くなっている)。
- ・仕事を引退しているから、カフェのおやじで「WSP」のような場を提供している！（カフェの時代になるのでは？）
- ・仕事をリタイア→趣味特技を活かした活動している！

■Dream forest

未来志向を体験して頂いた後は、いよいよテーマ「いつでもどこでも働ける」に入ります。

中央に高い山がそびえる広大な森、その山の頂上(ピーク)には“素敵な未来”が存在している…これが「Dream forest」の設定です。

この Dream forest では前回と同じく、頂上では既にテーマ「いつでもどこでも働ける」が実現していると仮定し、その頂上に到達するための入口＝「ゲート」を考えて頂きました。ポイントは考えた「ゲート」によって登り方(ルート)が変わるということです。「このゲー

トから頂上に登ったら楽しそう！」というイメージを、イラスト・言葉・スローガン等を書き出していきました！

■FISH BOWL



FISH BOWL とは、その名の通り『金魚鉢』という意味。ステップとしてはまず始めに、中央に4~5脚イスを丸く配置し、それを囲うように残りのイスを置きます。中央が金魚(対話をする側)、周りが鉢(ふむふむと聞く側)と設定し、ファシリテーターが設定したテーマについて、中央の人々から対話をスタートします。FISH BOWL のポイントは、聞く側がいつでも対話の中に入れるよう、中央のイスを常に「一つ空いている状態」にすることです。常に対話する相手を変えながら流動的に対話を進めることができます。

☆対話のテーマ:「(掲げたゲートからの)頂上への登り方について」

FISH BOWL のテーマは「ゲートから頂上への登り方について」です。頂上(ピーク)に対してどんな登り方があるのか、こんな登り方がしてみたい！など、対話で深堀していきました。

■対話録~FISH BOWL「ゲートから頂上への登り方について」~

〈マインドマップでまとめました！〉



・ゲート名[でっけるっかな♪]…システムとして、「こんなシステムは可能かな？」

- ・自分のスペシャリティーを登録し、出資者を募るシステム。
- ・会社の範囲外・プロジェクト単位・one click で始動できる。→オークション形式をとるのも◎
- ・個人の実力をデータ化(実力星がつくシステム etc.)して、「実績の見える化」。
- ・ポイントは、個人の実績、仕事のこれまでの経歴を蓄え、データ化する。

↓

- ・これらのシステムに「ついてける人、ついていけない人」の差が生まれるのでは？
- 個人の実績で仕事をする、いわゆる働く人の「個人事業主化」は、会社に守られないため失敗が許されない。
- セーフティーネットが必要！

・ゲート名[わくわく]

- ・まず、ゲートに入る前提として「入る・入らない」を選択できる。

・このゲートに「入りたい！」と思ってもらうには？

→ここ入るといいよ！と思わせる敷居の低さがポイント！

・個人事業主→「自己責任」が増す。

→この「自己責任」を EASY にする、EASY に捉えられるようにする。

・つらい未来は嫌、しかしゲートを入れることで何らかのストレスが生まれるのは仕方がないこと。

→ゲートの入口を EASY にする、「せねばならない」というストレスを EASY にすることでゲートに入り易くなる。

・人は「わくわく」でゲートに入れるのではないかな？

→主体的に判断したこと(楽しいと感じ、納得できたこと)に対して人は動く！

→∴「わくわく」でゲートに入れる。

・自分が楽しいことを選択すると、わくわくする！

→「個人個人の考えるわくわく=働く目的」⇔どんな「わくわく」が存在するか探さないといけない。

・自分の「わくわく」を追求することで、自分の本質が見え、本質的なターゲットが見える。

→「わくわく」する事に一生懸命になりながら、遠いターゲットに向かって行けたらいい！

・おぼろげな「理想」があった方がゲートに入り易い。

・「出世したいから働く」→「わくわくしたいから働く」という意識にシフトする。

・ゲート名[みんながつながっている]

・何か驚くことがないか、皆で発見し、協力して驚くことに挑戦したい！

・「わくわくできること皆で協力し、びっくりすることを成し遂げることで、“わく”が広がる」(わくわく+みんなつながっている)

・相手がいないと自分の価値観は形成されない。つまり「仲間によって」評価、承認される。

・「個人事業主」と「仲間」は相反さない！！

・自分主導で、「集まって！」と声を掛けたら集まれる！

⇔逆に自分が先頭でなくても、「この人だから集まりたい」というのも◎。

・「自分主導」と「協力する側」の行き来が自由にできたらいい！

・ゲート名[狭き門]

・ゲートに入ること=楽しい話のはずが、何か前提条件をクリアしないと入れないイメージがある。

・ゲートから山の頂上(ピーク)も見えているけど、入るゲートが重々しくて狭い…。

・入口がなかなか見つからない。

・なぜそう思うのか？

→みんなの意見を聞いていても、「本当にできるのかな？」という問いかけから考えてしまうから。

・ゲート名[パラダイス]

・わくわくと少し似ている。・イメージとしては、オレンジや青。

・(狭き門のイメージとは対称的に)太陽や海の光の先に頂上が見えているイメージ。

→ゲートには制限なく誰でも入れる！

・ゲートは「明るくて、透明」であり、今すぐにもゲートの先に行きたいと思う。

→閉ざされている所は全くない！

・ゲートを「パラダイス」か「狭き門」と感じる違いはどこからか？

→常識や価値観によってゲートの捉え方も変わる。行きたい人には輝いて見えるが、常識的な人にとっては魅力的に思えない。

・ゲート名[無条件]

・ゲートには、「誰でも」「生産しなくても」入れる。存在そのものを認める。

・ゲート名[ゲートに入る前に、選択できるゲート]

・ゲートの先に行きたくない人は行かなくても良いという選択肢が欲しい。

→「行きたい、行きたくない」をジャッジできるゲートが欲しい！

・頂上の景色が見えてから行くか行かないかを判断し、それからルートを探せばいいのでは？

■BIRTHDAY CAKE

続いて BIRTHDAY CAKE では、FISH BOWL で円形に座っている状態からケーキのように円を切り分け、3~4 人のグループを作りました。対話のテーマは、「FISH BOWL に対しての“気づき”」です。グループ内でそれぞれの「気づき」をシェアした後、参加メンバー全体でシェアしました。

〈グループ1〉

・ゲートに入るときは、自分の存在価値(等)を認識したとき。

・お互い表現が違うだけで目指すところは同じ(かも?)。

〈グループ2〉

・「覗いてみて、やめた」を OK にする。

→しかし、ゲートは何のために存在するのか？という問いが生まれる

→ゲートに入って行くには、勇気が必要であるし、リスクが伴うかもしれない。

→「入って行かない」という人に対し、どのように敷居を下げ、ゲートを広げるかがポイント。

〈グループ3〉

・ゲートの扉に気付く人・気付かない人・入るチャンスを逃してしまう人

→自ら、手を上げて動くことによってドアが開く！

〈グループ4〉

・頂上はやはり見えない物である(見えるという話もあったが)

・頂上はいくつも存在する可能性がある

・ゲートに入ることによって仲間ができる。

→自分たちで自分たちの頂上を色々作っていく、という考え方もできるのではないか。

・入りたくない人、入口に気付かない人は居るけれど、入った方が絶対楽しい！

■クロージング～WISH～



テーマ:[ワークシフトプレイス vol.6を通して、『気付いたこと』『チャレンジしようと思ったこと』について]

弥富さん・同じ方向性でも表現が異なると全く違って見える！→もっと人の話を聞く！

小野さん・一回以上対話のセッションをやってみる 小野さん

菊池さん・photo leading 私にとっての Gate か否か?(Gate が開くか?)

柴田さん・夜寝る前に「今日、わくわくしたこと」を手帳に一個書く

清水さん・ネガティブ意識に気付く

多胡さん・考えない感じない時間を作り、意識するコト

田中さん・ゴールはいろいろ！！・ドアもいろいろ！！〈気付く人、気付かない人〉・働く誇り、本質がベスト！！

谷さん ・日曜日の講師オーディションちゃんとかんばる！

丹田さん・自分の価値観で判断するのではなく存在を認めてあげる

町田さん・入口に入る 町田さん

森さん ・金魚鉢に入るのをちょっとためらってしまいました。次回は積極的に参加します。勇気を出して。

八木さん・未来に向かうための門を設定したとき、何が自分にとって門になっているのか、それをどうするか、シュミレーションしたいと思いました。